

取組項目	遊休農地を活用した農村景観向上の取組
組織名(市町名)	夢・はにしの里協議会(壬生町)

●地域内の遊休農地の対策を地域で話し合い、共同活動により、0.3haの農地において、人の背丈以上もある雑草を処理し、コスモスを植栽した。地元の方や、通行者からは、「見違えるほどきれいになったね」と話題になりました。今後も人々の目を楽しませてくれることでしょう。

●コスモス畑は地域の交流活動、小学校の授業の場などに活用され、保全活動への意識醸成を促進するなど大いに効果を発揮している。

●要費用: 日当、看板設置費、印刷経費など、約20万円



取組項目	地域住民等との交流活動・農用地等を活用した景観に配慮した作付け
組織名(市町名)	玉田の環境を良くする会(矢板市)

●構成員の「玉田集落営農組合」が中心となり、特色ある米づくりと集落全体で取り組める活動について模索した結果、集落情報の発信基地として「水田アート」を実施した。

●休耕田に、本県オリジナル品種「なすひかり」、飼料稲専用品種「リーフスター」、古代米の3品種で、「玉田」の文字と「高原山」を模した山並みのデザインが浮き上がる水田アートに取り組んだ。

●10月7日の収穫祭には、元気な子供たちや都市住民など約120名が集合し、稲刈り後の交流会では集落18戸総出でおもてなしを行った。

●参加した人からは「子供達の笑顔や生き生きとした姿が印象的であった」「作業後の豚汁やお餅がとってもおいしかった」といった意見も出され、楽しい取組となった。



取組項目	通学路への大規模な植栽
組織名(市町名)	芹沼地区自然環境を守る会(日光市)

●通学路としても利用されている農道(2路線)の路肩の片側約2kmに渡り約3000本のマリーゴールドを植栽した。また、一部約50mには雑草抑制ネットを設置した。

●花苗については、構成員の生産者に育成を委託し地域の活性化も図られた。

・日 時:平成19年6月10日(日)

・参加者:70名(内非農業者16名)

●要費用:花苗代、日当など、約25万円

●上記農道の反対側の路肩約1kmに渡り約500個の水仙の球根を植栽した。(開花は来年度)

・日 時:平成19年11月3日(土)

・参加者:75名(内非農業者31名)

●要費用:球根代、日当など、約12万円



取組項目	景観形成のための施設への植栽
組織名(市町名)	大久保まちづくり推進委員会(塩谷町)

●構成員から「誇れる郷土」、「美しい田園」を目指す活動として、この地域で何ができるか話し合った結果、「あじさい」の咲き誇るまちづくりを進めることとなった。

●今年は、6月24日に構成員71名の参加を得て、肘内用水に約600本、600mに渡り植栽を実施した。

●参加した人からは、「ここに咲き乱れるあじさいの時期が楽しみ」「植えつけ後の管理をどの様に進めるか」など、今後の活動に積極的な意見が多く出され、今後も計画的に用水法面等を活用して植栽を進めていきたい。

●費用:あじさい苗代、肥料・資材代、日当など、約130万円



取組項目	生態系保全・景観形成・地域住民等との交流活動
組織名(市町名)	羽谷久保まちづくり推進委員会(塩谷町)

- 羽谷久保地区の憩いの場である「親水公園」を中心に、水路・畦畔・農道の路肩・法面の除草・清掃作業を構成員16名と「とちぎ夢大地応援団」の都市住民27名で実施した。
- 作業日の9月9日は30℃を超える快晴の中、汗だくになりながら黙々と作業に打ち込んだご褒美として、天然氷を使った「かき氷」は参加者から大好評でした。
- さらに、地元の方が用意してくれたお赤飯と豚汁に舌鼓を打ち、食事後はみんなでホタル水路にホタルの幼虫の餌となるカワニナの放流で都市農村交流を図った。
- 親水公園の顔となる「看板」に、参加者みんなで「筆入れ」をして当日の作業を締めくりました。



取組項目	ため池等を中心とした景観整備
組織名(市町名)	しのはら玉藻の里(大田原市)

- 地区内のため池周辺の整備。ふじ棚や、桜の木、梅の木があるが、桜や梅は古くなり、ふじ棚も老朽化してきているため、景観の向上のため整備した。
- 古木は剪定し、整地した後、桜の苗木を植栽した。ふじ棚は、剪定した。
- 今回は整備したばかりであり、今後の桜やふじの開花が楽しみである。



取組項目	花の植栽による農村景観の向上
組織名(市町名)	蛭畑の環境を守る会(大田原市)

- 構成員500名(延べ)、水路の法面への花(サルビア、パンジー、メランポジューム)の植栽、草取りを実施しました。
- 花壇を400m(1箇所)、7m(10箇所)設置しました。
- 老人会など年配の方を含め、家族ぐるみで参加してくれるようになった。協力する人が増えた。



取組項目	農村景観の向上(花の植栽)
組織名(市町名)	実取環境保全会(大田原市)

- 構成員200名(延べ)、子供たちも参加して地区内農地約1ha、マルチ張りでヒヤクニチソウを約1kmを植栽しました。
- 散歩やジョギングなど、自分たちで植栽した場所を通るのが楽しみになりました。



取組項目	景観形成のための植栽等
組織名(市町名)	青木三区保全組合(那須塩原市)

- 幹線農道沿いの農用地延長約100mを利用して、ヒマワリの種を蒔き、景観形成を行う。
- 植栽したヒマワリの管理として、自治会を主体として草取りなどを行った。
- 通行する人の目に留まるような景観形成と看板を設置することにより、対策の周知に役立った。来年は遊休農地等を利用し、さらに大きな規模で実施したい。



取組項目	女性会が中心となった景観向上の取組
組織名(市町名)	久那瀬農地水環境保全会(那珂川町)

- 畑を利用し景観作物の植栽を行った。
次年度に向けた準備として、女性会が中心となり、今年度植えたコスモスの種を採取した。
- もともと、ボランティア団体が活発に活動してきた地域であるので、支援金の使い方にも工夫をし、無駄が無いように努めている。
- 費用 飲み物代



取組項目	景観形成・啓発
組織名(市町名)	上河原農地水保全委員会(那珂川町)

- 当地区は、混住化が進み農村環境を守る意識が希薄になってきている。
国道沿いの農地15アールに花畑と啓発看板を設置し、非農家や、構成員外の方にも目にとまる形で、活動を紹介し、参加しやすい状況を作ってきた。
- 花畑には、マリーゴールドやコスモスなどを植栽したが、雑草管理や後かたづけの作業に予想外に手間がかかったが、この活動を契機に、草刈や生き物調査などの活動への参加者が増えてきたように感じる。
- また、全国農業新聞に掲載されたことで、地域の意識もいっそう高まってきている。
費用: 物材費・日当等 約40万円



取組項目	農村景観の向上
組織名(市町名)	川井地域農村環境保全会(那須烏山市)

●当地区は、高齢化・後継者不足の問題がある農村地域であり、最近、希薄になった地域コミュニティの回復を目指し活動に取り組んでいる。

●活動区域内に湧水により湿田となっていた休耕地(約3a)があり、営農上も問題になっていた。

●そこで、本活動において、除草・耕起を行い、ミズバショウを植栽し地域の憩いの場として自主施工することとした。

2年目からは、他の種類の花の植栽や、ミズバショウ観察会を開き、啓発を行いたいと考えている。

●活動内容:除草・耕起・植栽・管理等
費用:苗代等 約11万円



平成19年12月29日下野新聞 掲載



取組項目	女性会が中心となった景観形成の取組
組織名(市町名)	浄法寺環境保全委員会(那珂川町)

●当地区は、混住化が進み農村環境を守る意識が希薄になってきている。

そこで、花にあふれる潤いの地域をめざし、花の植栽を通じて、地域の結びつきを強めた。

●この活動は、女性会が中心となり、区域の選定や、花の種類、植栽時期の相談・計画を進めた。

植栽は、休耕地20アールに行い、全国農業新聞や町広報誌に掲載されたことで、いっそう意識高揚している。

●費用:日当・物材費・飲み物代等 約9万円

